

原木需給情報システム開発事業関連海外情報

No. 5, 8 May 2013



韓国 2012 年建築着工実績

韓国統計庁の統計に基づき、同国の 2012 年の建築着工状況を以下のとおり紹介する。

1. 資材別建築物着工状況

2012 年度 GDP は、輸出の増加が続いたものの、民間消費の鈍化、建設投資と設備投資の不振のため、前年（2011 年 3.7%成長）より低い 2.0%の成長となった。

表 1 資材別建築物着工棟数

年	合計	鉄筋鉄骨造	組積造	木造	その他
2005	114,554	101,140	11,415	1,993	6
2006	147,040	127,464	14,971	4,203	402
2007	179,015	153,216	17,425	6,966	1,408
2008	181,603	154,920	17,787	8,191	705
2009	170,136	143,355	16,510	9,503	768
2010	188,470	162,880	14,908	9,585	1,097
2011	198,863	173,986	14,384	10,037	456
2012	190,589	167,159	12,582	10,369	479
2013 年 1 月	9,576	8,579	508	459	30
2 月	10,210	9,067	570	538	35
3 月	16,479	14,275	1,141	1,008	55

出所：韓国統計庁。以下同。

表2 資材別建築物着工床面積

(単位：1,000m²)

年	合計	鉄筋鉄骨造	組積造	木造	その他
2005	84,178	83,006	975	205	1
2006	84,870	83,382	1,086	365	37
2007	96,651	94,573	1,326	592	160
2008	75,194	73,123	1,363	665	43
2009	71,251	69,240	1,229	735	47
2010	82,484	80,340	1,309	781	52
2011	98,850	96,851	1,110	860	29
2012	99,629	97,799	934	861	35
2013年1月	6,332	6,251	40	38	2
2月	7,832	7,743	42	45	2
3月	8,603	8,417	89	92	4

同年の建築物着工数は190,589棟となり、前年対比4.2% (8,274棟) 減少した。資材別では、鉄筋鉄骨造が87.7% (167,159棟) と最も多く、次いで組積造が6.6% (12,582棟)、木造が5.4% (10,369)、その他が0.3% (479棟) の順となっている。この中で、木造住宅は、前年対比3.3% (332棟) 増加しており、2000年からの増加傾向が続いていることが特徴である。このような増加傾向は、2013年の第1四半期 (1月459棟、2月538棟、3月1,008棟) にもみられる。

しかし、床面積で着工状況をみると、鉄筋鉄骨造が98.2% (97,779千m²) と圧倒的に多く、組積造や木造は1%未満である。

2. 用途別建築物着工状況

建築物の2012年着工実績を用途別にみると、着工棟数160,813棟のうち住居用が53.9% (86,683棟) と最も多く、次いで商業用が29.1% (46,735棟)、工業用が12.1% (19,448棟)、教育・社会用が4.9% (7,947棟) の順である。住居用は2000年から増加傾向が続き、2006年から商業用の着工棟数を超えている。

表3 用途別建築物着工棟数

年	右記項目の計	住居用	商業用	工業用	教育・社会用
2005	87,078	32,710	34,188	20,180	-
2006	107,375	43,737	39,629	24,009	-
2007	132,896	60,265	49,227	23,404	-
2008	136,270	63,943	50,401	21,926	-
2009	154,186	93,190	43,591	17,405	-
2010	148,267	71,503	46,739	21,396	8,629
2011	164,029	86,680	48,556	21,208	7,585
2012	160,813	86,683	46,735	19,448	7,947
2013年1月	7,838	3,661	2,481	1,227	469
2月	8,683	4,506	2,503	1,244	430
3月	14,155	7,728	4,144	1,700	583

表4 用途別建築物着工床面積

(単位：1,000m²)

年	右記項目の計	住居用	商業用	工業用	教育・社会用
2005	66,986	31,502	21,764	13,720	-
2006	64,484	28,433	20,971	15,080	-
2007	74,069	32,745	25,170	16,154	-
2008	55,923	15,663	23,620	16,640	-
2009	50,626	22,259	17,807	10,560	-
2010	68,108	24,416	20,434	14,922	8,336
2011	83,802	37,641	23,874	15,430	6,857
2012	84,802	39,214	24,068	13,957	7,563
2013年1月	5,525	1,791	1,972	974	788
2月	5,969	3,117	1,436	1,006	410
3月	7,438	3,628	2,023	1,192	595

3. 地域別建築物着工状況

建築物の2012年着工実績を地域別にみると、ソウル近郊の京畿道(Gyeonggi-do)が21.5%と最も多く、次に慶尚北道(Gyeongbuk)が11.5%、慶尚南道(Gyeongnam)が10.8%、忠清南道(Chungnam)が8.5%、全羅南道(Jeonnam)が8.0%、全羅北道(Jeonbuk)が7.0%、忠清北道(Chungbuk)が6.7%の順である。一方、ソウルは4.3%に過ぎない。京畿道の人口は1千万人を

持っているソウル を超えて韓国で最も人口が多い地域となっている。

一方、木造住宅の着工実績をみると、田園住宅地域として注目されている京畿道が19.5%と最も多く、次に江原道(Gangwon-do)が13.4%、慶尚南道が13.1%、全羅南道が12.6%、慶尚北道が10.8%の順である。ソウルは0.8%程度に過ぎない。

表5 2012年地域別建築物着工棟数

区分	計	コンクリート造	鉄骨造	組積造	鉄骨鉄筋造	木造	その他
合計	189,675	68,762	96,429	12,548	1,114	10,344	478
ソウル	8,091	6,979	461	395	164	85	7
プサン	5,336	2,814	2,137	269	57	54	5
大邱広域市	4,370	2,189	1,869	185	45	73	9
仁川	4,129	1,771	1,812	273	45	221	7
光州広域市	3,941	1,994	1,675	164	43	52	13
大田広域市	2,694	1,591	872	123	39	63	6
蔚山広域市	4,448	2,277	1,915	142	24	89	1
京畿道	40,705	15,253	21,393	1,698	267	2,014	80
江原道	11,514	2,788	6,259	986	49	1,384	48
忠清北道	12,636	3,411	7,612	927	41	620	25
忠清南道	16,133	5,336	8,672	1,142	75	877	31
全羅北道	13,230	3,900	7,275	1,281	50	690	34
全羅南道	15,086	3,676	8,520	1,458	72	1,305	55
慶尚北道	21,817	5,416	13,643	1,494	52	1,119	93
慶尚南道	20,574	7,122	10,343	1,621	69	1,358	61
済州	4,971	2,245	1,971	390	22	340	3

注：韓国の担当当局に確認した結果、集計ミスのため、「合計」行のデータと表1の「2012」行のデータとの相違がある。



韓国銀行は、2013年度の経済展望の中で、政府の不動産総合対策（2013年4月1日）などの好影響により、2013年の建設投資、住宅着工、住宅市場は拡大されると予想している。

JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC JAWIC